

令和5年度 全国学力・学習状況調査における徳島県の結果概要

徳島県教育委員会

平均正答率(小学校)

	令和4年度		令和5年度	
	徳島県	全国	徳島県	全国
小学校 国語	64	65.6	66	67.2
小学校 算数	62	63.2	62	62.5

平均正答率(中学校)

	令和4年度		令和5年度	
	徳島県	全国	徳島県	全国
中学校 国語	71	69.0	68	69.8
中学校 数学	55	51.4	51	51.0

	令和元年度		令和5年度	
	徳島県	全国	徳島県	全国
中学校 英語	57	56.0	45	45.6

結果分析の概要

○小学校、中学校ともに授業改善は進んできており、一定の学力の定着は見られる。

○小学校については、国語、算数ともに正答率の全国平均との差は縮まるとともに、総合順位も上がっており、改善傾向が見られる。

○中学校については、昨年度、全国平均を上回っていた国語、数学において、国語は全国平均よりも下、数学は全国平均並となり、総合順位も下がった。英語については全国平均並だった。

教科ごとの結果分析

小学校国語

学習指導要領の内容	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島(公立)	70.1	61.9		71.3	24.3	70.3
全国(公立)	71.2	63.4		72.6	26.7	71.2

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
徳島(公立)	67.8	64.2	
全国(公立)	68.9	65.5	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	72.7	60.9	49.1
全国(公立)	73.6	62.7	51.1

◇成果が見られる点

「運動について書かれた本の一部」と「運動について書かれたパンフレットのページ」という二種類の資料の内容を端的に捉える問題では、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したものを選択することができている。また、「インタビューの様子」の問題では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができている。

▲課題が見られる点

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、「意外」という漢字の書き取りで、同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられる。

また、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題は正答率が低く、グラフからわかることと、カードの情報からわかることを関係付けて文章を書くことができていなかった。伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを考えられるようにすることが大切である。

○授業改善のポイント

【定着に課題がある指導事項の明確化】 → カリキュラムマネジメントの推進

- ・課題を学校全体で共有し、系統性を意識した組織的な学習指導の改善充実を図る。
- ・定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画に反映させるなどして、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、定着を図る。

【児童のつまずきに応じた学習指導】 → 指導と評価の一体化を図る

- ・学力調査結果の「解答類型」に表れた児童一人一人のつまずきを捉え、「授業アイデア例」等を活用し、学習状況の改善を図る。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現】

- ・「質問紙調査」の結果を分析し、学習指導の改善・充実に役立てる。

小学校算数

学習指導要領の領域	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
徳島(公立)	67.9	44.6		70.7	63.9
全国(公立)	67.3	48.2		70.9	65.5

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	66.3	55.5	
全国(公立)	67.2	56.5	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	54.4	75.0	47.0
全国(公立)	57.7	74.7	47.3

◇成果が見られる点

いすを重ねていった時のいすの数と高さを示す表から読み取れる規則性を見出し、知りたいいすの高さを求める問題(4年生「C 変化と関係」領域)で正答率が非常に高かった。伴って変わる二つの数量について、表から規則性を見つけることができ、他の数値においても成り立つことを確かめることができる力が身に付いている。

▲課題が見られる点

2つの三角形の面積に関する問題(5年生「B 図形」領域)の正答率が低かった。高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題である。2つの三角形とも底辺は 3.2cmと同じであるが、数値で示されていない高さについて、テープの幅が高さであることに気付くとともに、「はばはどこも等しく」ということから、面積は等しいことが導くことができていない。誤答としては、「このままでは比べることができない。」を選択している児童が多かった。高さについて具体的な長さが示されていないことを記述し、面積はこのままでは比べることができないと判断しているようであった。三角形の面積の公式を使うことはできても、公式の意味を深く考えることができていないことが考えられる。

○授業改善のポイント

A 数と計算

- ・数量の関係を捉え、問題の解決に式を用いることができるようにする指導の充実
- ・筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察できるようにする指導の充実

B 図形

- ・目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることができるようにする指導の充実
- ・底辺と高さの关系到着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする指導の充実

C 変化と関係

- ・伴って変わる二つの数量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにする指導の充実

D データの活用

- ・複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実

中学校国語

学習指導要領の内容	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島(公立)	66.6	62.1	75.1	80.8	59.3	60.3
全国(公立)	67.5	63.4	74.7	82.2	63.2	63.7

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	問題形式	選択式	短答式	記述式
				徳島(公立)	68.9	66.9	
全国(公立)	69.4	69.7		全国(公立)	73.1	65.6	68.0

◇成果が見られる点

事象や行為、心情を表す語句について理解することや、古典において、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことはできている。

また、インターネットの記事を読んで、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することや、インタビューをする際に、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的な質問を考えることはできている。

▲課題が見られる点

『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方を書く問題では、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように書くことができなかった。

また、現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く問題は正答率が低く、無解答率が高かった。文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

○授業改善のポイント

【定着に課題がある指導事項の明確化】 → カリキュラムマネジメントの推進

- ・課題を学校全体で共有し、系統性を意識した組織的な学習指導の改善充実を図る。
- ・定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画に反映させるなどして、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、定着を図る。

【言語活動の工夫】

- ・指導事項を指導するために、言語活動の設定を工夫し、学びへの興味・関心を高める。

【生徒のつまずきに応じた学習指導】

- ・生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむために、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるよう指導する。
- ・学力調査結果の「解答類型」に表れた生徒一人一人のつまずきを捉え、「授業アイデア例」等を活用し、学習状況の改善を図る。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現】

- ・「質問紙調査」の結果を分析し、学習指導の改善・充実に役立てる。

中学校数学

学習指導要領の領域	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
徳島(公立)	65.2	31.8	50.6	48.8
全国(公立)	63.0	33.2	51.2	48.5

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	57.1	39.9	
全国(公立)	55.7	41.6	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	48.2	63.0	39.9
全国(公立)	45.3	62.6	41.6

◇成果が見られる点

yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対するyの値について、反比例の性質を正しく理解し、正しい記述を選ぶ問題(1年生「C 関数」領域)の正答率は全国平均よりも大幅に高かった。関数を用いて事象を捉え考察する場面において、事象の特徴を的確に捉えたり、単に反比例の式を理解しているだけでなく、式の意味を深く理解することができている。

▲課題が見られる点

2つの合同な三角形を並べた四角形について、①対応する角が等しいこと、②錯角が等しいことから2直線が平行であることを証明する問題(2年生「B 図形」領域)の正答率が低かった。問題文を正確に読み取った上で、①と②が満たされることを順序立てて説明することができていなかった。順序立てはできていても、根拠が抜けていたり、表現が不十分である解答も多かった。また、無解答率も非常に高く、他の記述式の問題でも無解答率が高かったため、説明・証明等、記述式の問題にしっかり取り組む必要がある。

○授業改善のポイント

A 数と式

- ・事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する活動の重視
- ・予想した事柄が成り立つかどうかを具体的な数や文字式を用いて調べる活動の充実

B 図形

- ・身の回りにある事象を図形として捉え、考察する活動の重視
- ・証明を振り返り図形の性質を論理的に考察する活動の充実

C 関数

- ・数学的に表現された結果を事象に即して解釈する活動の重視
- ・事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

D データの活用

- ・度数分布表や代表値などを用いてデータの分布の傾向を捉える活動の重視
- ・データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の充実

中学校英語

学習指導要領の領域	聞くこと	読むこと	書くこと
徳島(公立)	57.2	49.4	25.3
全国(公立)	58.4	51.2	23.4

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	52.0	37.3	
全国(公立)	51.5	38.8	

評価の観点	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	53.3	32.8	14.2
全国(公立)	54.8	30.1	13.5

◇成果が見られる点

対話文において、文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことができるかどうかをみる問題で、与えられた英語を適切な形に変えて会話が成り立つように英文を完成させる設問での正答率が全国の正答率よりも高かった。会話の流れから未来表現(be going to ~)を使用することが適切と判断し、正確に使用することができる技能が身に付いているといえる。

▲課題が見られる点

「聞くこと」の領域では、忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、取るべき行動を選択する問題での正答率が全国の正答率よりも低かった。目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることに課題がある。置かれている状況を踏まえ、どういう情報が必要かを考えさせた上で、それらに関連する語句や表現に着目し、必要な部分を集中して聞き取ることができるように指導していくことが大切である。

「書くこと」の領域では、学校生活について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題での正答率が問題全体の中で低く、無解答率もやや高かった。授業では、あるテーマについて、事実や考えを整理し、文章構成を判断して、文と文のつながりなどに注意しながらまとまりのある文章を書くことができるように言語活動を行うことが大切である。

○指導改善のポイント

【聞くこと(自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る)】

英語を聞く前に、必要な情報に関連した語句や表現を予測させ、必要な情報がある部分に集中して聞き取るように意識させる。英語を複数回聞く場合には、「何を聞き取るのか把握する」、「必要な情報と必要としない情報に分ける」など、その都度聞き取りの視点を与えることが大切である。

【書くこと(まとまりのある文章を書く)】

単元全体で計画的に言語活動と指導を繰り返しながら、適切かつ正確に書くための指導を段階的に行っていくことが大切である。その点を踏まえ、次のような学習活動を行うことが考えられる。

- ・日々の授業で少しずつ自分の意見や考えなどを書く。
- ・文章構成を意識できるように読むことの活動を行い、書くことの活動へつなげる。
- ・生徒が何を書けばよいか想起できるように、書く前にテーマについてやり取りをするなどして、複数の領域を統合した言語活動を取り入れる。
- ・書いたものをペアやグループで読み合い、言語面での気づきを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したりコメントを述べたりし、その内容を参考に推敲するなどの活動を取り入れる。

○「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回った。

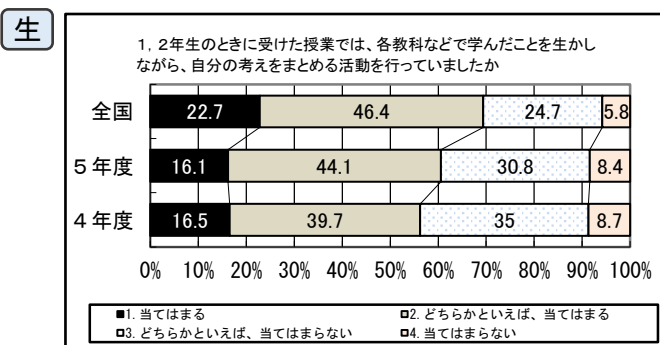
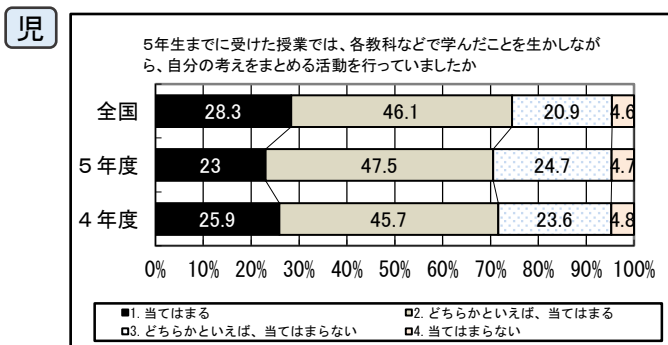
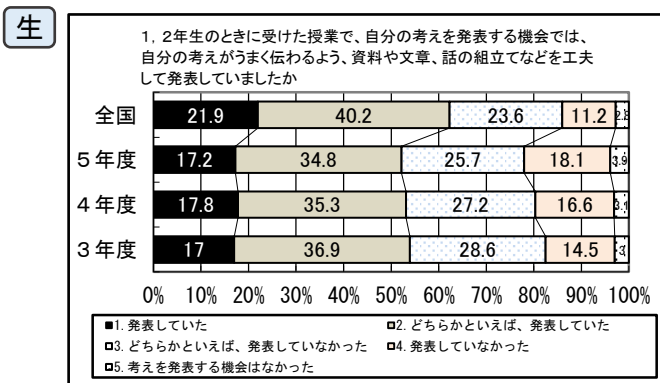
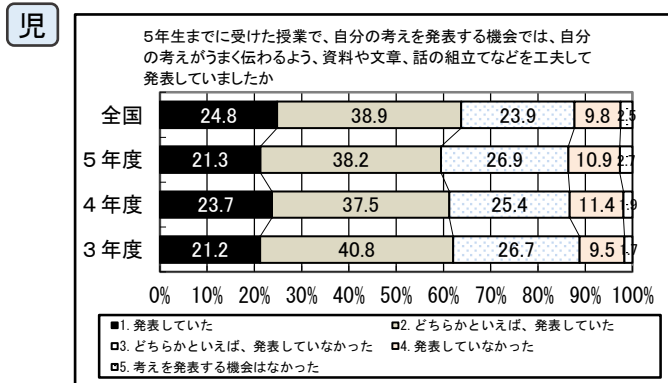
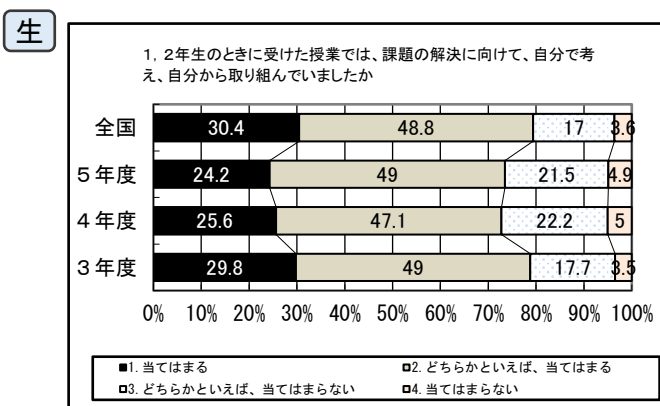
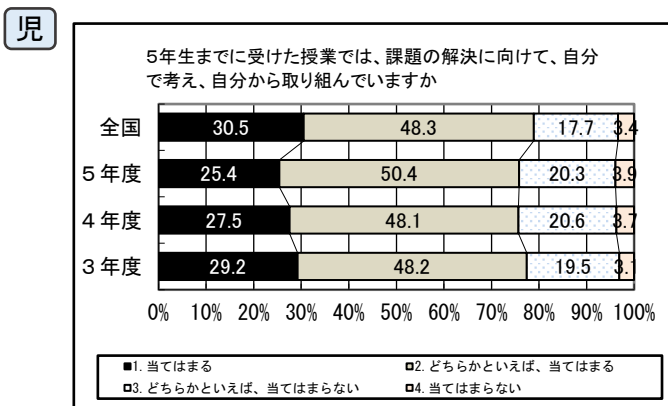
○「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均とほぼ同じだった。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を上回った。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回った。

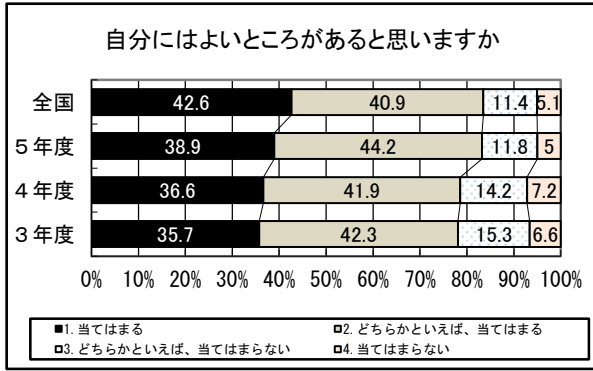
○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回った。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

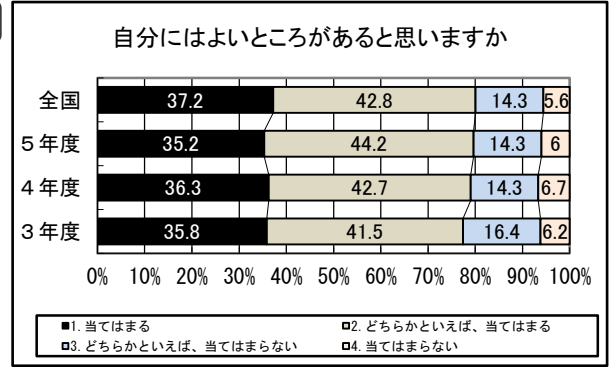


【自己有用感・幸福感等】

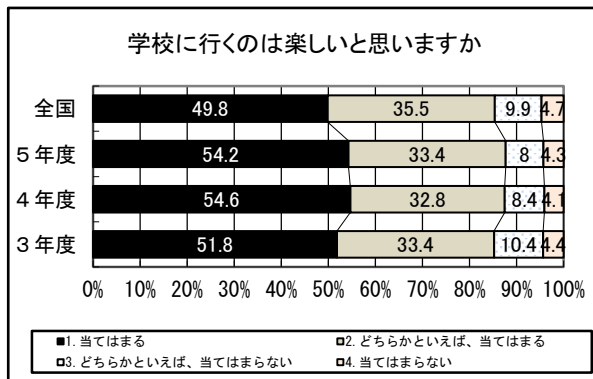
児



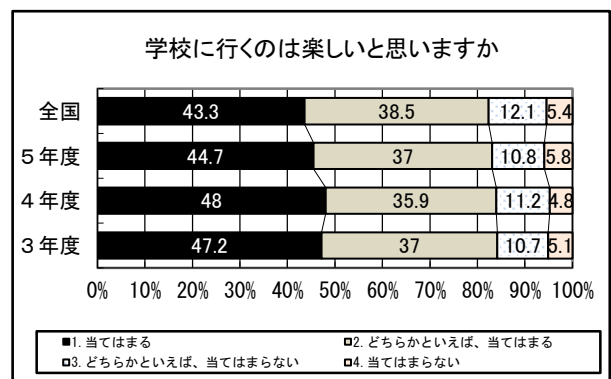
生



児

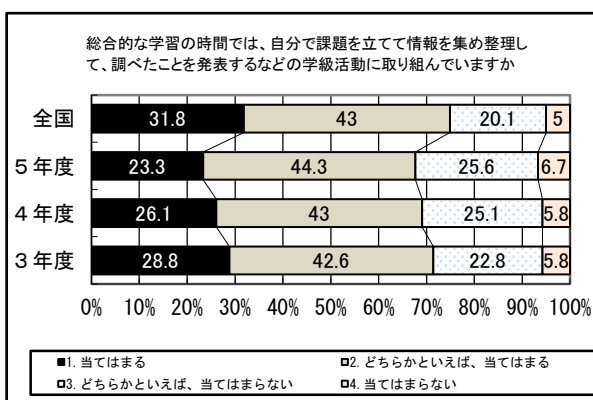


生

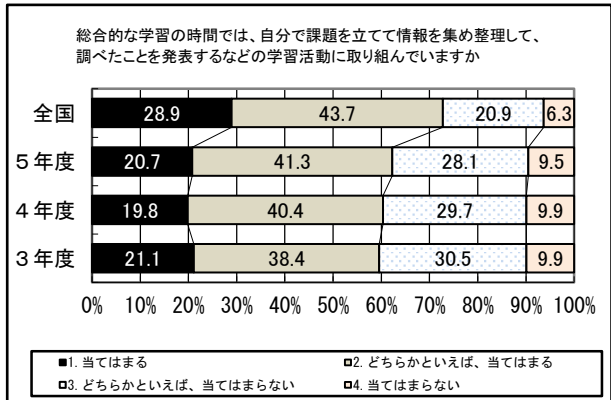


【総合的な学習の時間、学級活動】

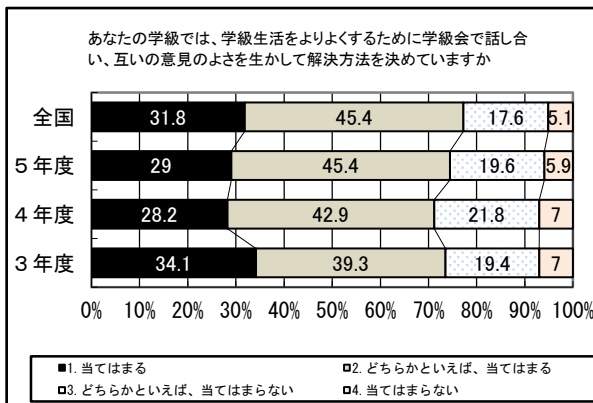
児



生



児



生

